

浜名湖 SA を活用した遊覧船利用者の特性と事業継続のための課題分析

日本大学理工学部社会交通工学科 学生会員 ○渡瀬 貴明
 日本大学理工学部交通システム工学科 正会員 下川 澄雄
 日本大学理工学部交通システム工学科 正会員 江守 央

1. はじめに

浜名湖舟運プロジェクトの一環である東名高速道路浜名湖 SA を起点とした遊覧船(以降、「遊覧船」という)は、日本で初となる第二駐車場を介さずに SA から直接利用を可能とするものであり、高速自動車国道法第 11 条および第 17 条でいう、いわゆる「みだり出入の制限等」の遵守が不可欠であった。そこで、そのための検証、利用者数や採算性の確認、期待される効果や課題などを把握することを目的として平成 25 年度に社会実験¹⁾が実施され、平成 26 年 3 月からの本格運行に至った。(表-1 参照)。

しかしながら、本社会実験は、主として事業としての成立可能性に着眼したものであり、必ずしも本格運用後の事業継続性を念頭においたものではない。

そこで、本研究では、遊覧船利用者および非利用者等へのアンケート調査により、遊覧船の事業継続に向けた課題について明らかにし、今後の事業展開の一助とするものである。

表-1 浜名湖遊覧の運行概要

期間	3月22日(土)~11月30日(日), (土日・祝日, お盆など)
受付	10時~16時
料金	1,000円(小学生以下500円)
時間	約20分

2. 調査方法

(1) 事業継続のための条件の整理

浜名湖遊覧船の事業継続のためには、表-2 に示す条件を満足する必要がある。このうち、成立条件に関しては、事業者の報告から、①遊覧船利用者の飲酒、②駐車場の長期占有車両、③遊覧船利用が最大となる日における駐車場の満車状態、がないことに加えて、④湖上にとどまり休憩目的に供されているとともに、⑤事業採算上問題が無いことから、みだり出入の制限等が遵守されていることが確認されている。

表-2 事業継続のための3つの条件

条件	条件の内容
成立条件	①みだり出入の制限等の遵守 ②安全性の確保
前提条件	①利用者のリフレッシュや満足の程度
必要条件	①コース(所要時間や料金)の妥当性 ②遊覧船に対する認知と潜在需要

この中で、採算性については、表-3 にみられるように、社会実験で得られた採算ライン(100 人/日)を超えている。

また、事前の安全対策として、①風速 10m を観測した場合や雨天時の運休、②利用者のライフジャケット着用の徹底、事後報告として、③利用者の事故、怪我がなかったことが確認されている。

そのため、本研究では、アンケート調査より、表-2 に示す事業継続のための前提条件と必要条件の検証を行い、今後の課題を明らかにする。

表-3 浜名湖遊覧船の運航状況と利用実績

運航	日数	延べ利用者数	平均利用者数 [※]
全日運航	73	6,905	89
一部運休	5	1,374	18
全日運休	16	483	6
合計	94	8,762	112

※延べ利用者数/(全日運航+一部運休)

(2) アンケート調査の概要

前提条件と必要条件を検証するため、遊覧船利用者および非利用者等にアンケート調査を行った。アンケート調査の概要は表-4 のとおりである。

表-4 アンケート調査の概要

種類	目的	調査方法	調査実施日	回答数
遊覧船利用者アンケート	遊覧船利用者の「満足度」や「ニーズ」を明らかにするとともに、利用者属性を明らかにする。	下船後、事業者が調査票を配布・回収。	7月~10月の土日休9日間	322
休日SA利用者(非利用者)アンケート	遊覧船利用者の属性との違いを把握するとともに、SA利用者が遊覧船を利用しなかった理由などを明らかにする。	遊覧船の発着が見える場所にてヒアリング。	8.24(日), 8.31(日)	229
平日SA利用者(非利用者)アンケート	平日SA利用者に対し、遊覧船利用の意思を明らかにする。	遊覧船の棧橋が見える場所にてヒアリング。	8.27(水), 9.2(火)	209

3. 事業継続のための前提条件の検証

遊覧船事業の継続のためには、それ自身が利用者にとってリフレッシュでき満足できる施設であるかが前提となる。このことは、SA の本来目的であり、SA の価値向上にもつながる。つまり、遊覧船事業は、高速道路会社が目指す目標を含めた合目的な事業であることが不可欠である。

具体的には、図-1にみられるように、遊覧船が高速道路利用者のリフレッシュを増進させており、図-2からも、遊覧船利用者は風や景色など浜名湖の自然の恵みを実際に感じている。

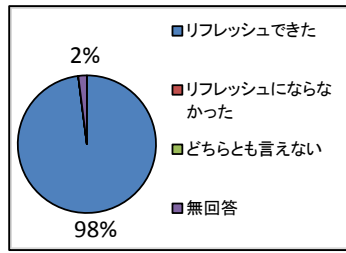


図-1 遊覧船によるリフレッシュ

このことから、遊覧船事業は、浜名湖 SA の新たな魅力につながるものと期待され、事業継続のための前提条件は成立していると考えられる。

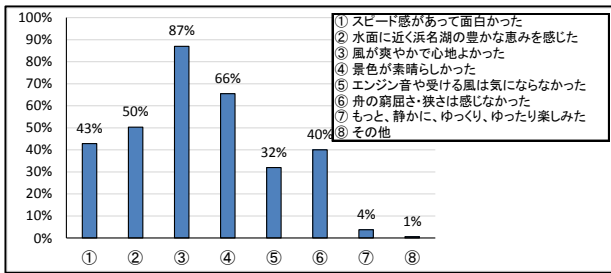


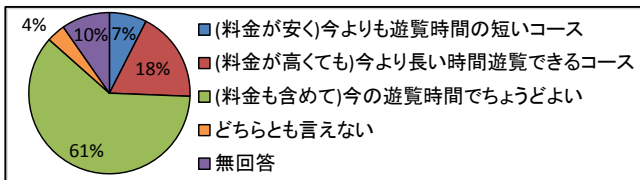
図-2 遊覧船の感想

4. 事業継続のための必要条件の検証

(1) コース (所要時間や料金) の妥当性

遊覧船利用者に対し、コースに対する希望を聞いたところ(図-3)、6割以上が「ちょうどいい」と回答している。一方で、「料金が高くても長い時間」を希望する回答も2割程度みられた。また、遊覧船が運航していない平日の浜名湖 SA 利用者へのアンケートによると、SA 利用者の2/3が遊覧船利用の意思を示しているが、そのときの時間と料金は、20分、1,000円が最多であった。以上より、現行の所要時間および料金は妥当と判断されるが、所要時間については改善の余地もありそうである。

[遊覧船利用者]



[平日浜名湖 SA 利用者]

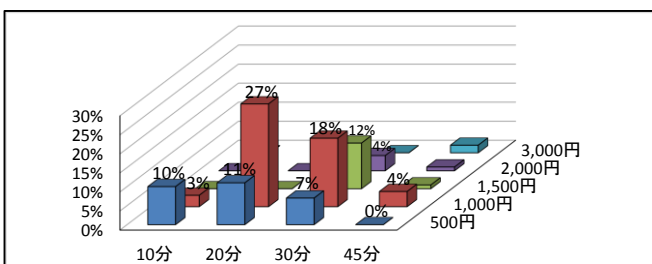


図-3 遊覧船利用者 (希望者) が求めるコース

(2) 遊覧船に対する認知と潜在需要

休日に浜名湖 SA を利用した人(遊覧船非利用者)に遊覧船について聞いたところ、図-4に示すように、約8割が「知らない」と回答している。しかし、そのうちの4割は「知っていれば利用した」と回答している。

一方、遊覧船を知っていた人を居住地別にみると、図-5に示すとおり、静岡県居住者は半数以上が「知っている」と回答しているが、浜名湖以西の居住者は2割にも満たない。これに対して、図-6は、遊覧船利用者の居住地と認知状況を示している。無回答を除けば、遊覧船利用者の7割弱は浜名湖以西であり、また認知率は静岡県居住者と異なり図-5と同程度以上である。

以上より、浜名湖以西を中心として遊覧船利用に対する潜在需要は高いといえるが、静岡県居住者を除けば認知率が低く、遊覧船を知ってもらうことが今後の安定した利用者獲得において重要な鍵になるものと考えられる。

[遊覧船の認知状況]

[非認知者の利用意向]

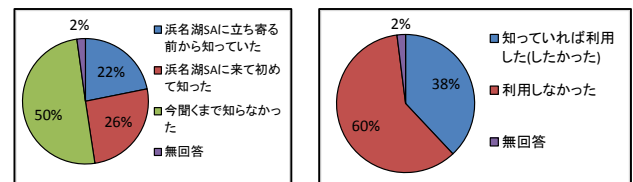


図-4 浜名湖 SA 利用者の遊覧船認知と利用意向

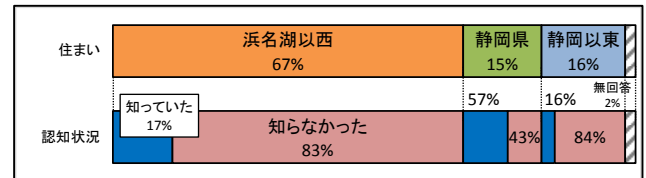


図-5 浜名湖 SA 利用者の居住地と認知状況

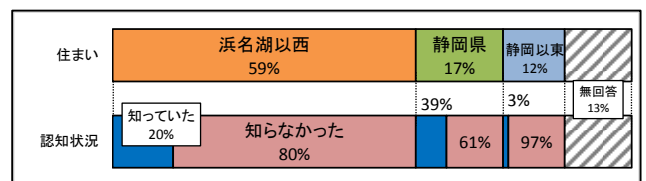


図-6 遊覧船利用者の居住地と認知状況

5. おわりに

本研究により、事業継続の課題が明らかとなってきた。一方、本遊覧船事業は、浜名湖地域の観光振興のための重要な施策の一つとして位置付けられている。そのため、事業継続と併せ、浜名湖観光とどのように結び付けていくのか、そのための戦略と戦術も今後重要となろう。

参考文献

1) 下川澄雄, 松浦真人: 浜名湖 SA を活用した舟運による減災・地域振興に関する実証実験結果について, 河川, pp52-58, 2014.5